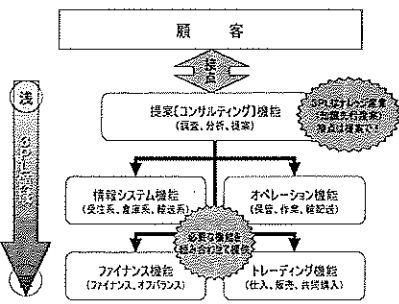


【図1】3PL業務のサービス拡大の可能性



Copyright ©2006 F-Logi Inc. All Rights Reserved

「浅く広く」の3PLという概念が、日本に上陸して約十年。しかし導入実績は1%以下という。実際は大変な状況にあるが、

「人材」は更に二系統に分けられる。第一に提案(コンサルティング)業務(コンサルタント)である人材、第二に現場管理者(業務の立ち上げや運営ができる人材)であった。

センター運営という業務は情報システム管理、構内作業管理、労務管理、探算管理など、多岐にわたる設計・管理能力(マネジメント)が問われるサービスである。トラックを活用した輸送は得意でも、倉庫内管理は不得手な企業が多いという実情が結果となって表れているのである。

顧客はオペレーションにかかる負担を熟知しており、水統的なコスト低減にはお

たえば、在庫の削減に貢献する3PLはどうか。売掛・買掛を削減できる3PLはどうか。自社の視点を変えたり、自分の首を絞め続けるリスクが伴う事業であることも理解する必要がある。

3PLという状態にはいろいろな切り口があるが、未だにその中心は物流オペレーション提供であろう。具体的には保管、作業、輸送といった基本的なサービスの提供である。

顧客への在庫削減提案は自社の保管スペースを減少させる、など書いている場合ではない。自らが提案しないことが提案するのである。

3PLとは提案(コンサルティング)機能、情報システム機能、オペレーション機能、ファイナンス機能、トレーディング(卸社)機能といったさまざまな機能を組み合わせ提供するという業務の特性がある。

この特性を活かして、顧客のさまざまな問題解決に対して一層になって取り組めることが3PL選択理由の最大の理由である。

① 物流業界における「3PLの実践度」を数字で把握すること。

② 3PL導入にあたっての問題点を把握し、解決のための課題をあぶりだすこと。

③ 3PLを導入したラッシュ運送事業者は、なんと全業者の概ね「1%」であった。

3PLという概念が、日本に上陸して約十年。しかし導入実績は1%以下という。実際は大変な状況にあるが、

「人材」は更に二系統に分けられる。第一に提案(コンサルティング)業務(コンサルタント)である人材、第二に現場管理者(業務の立ち上げや運営ができる人材)であった。

センター運営という業務は情報システム管理、構内作業管理、労務管理、探算管理など、多岐にわたる設計・管理能力(マネジメント)が問われるサービスである。トラックを活用した輸送は得意でも、倉庫内管理は不得手な企業が多いという実情が結果となって表れているのである。

顧客はオペレーションにかかる負担を熟知しており、水統的なコスト低減にはお

たえば、在庫の削減に貢献する3PLはどうか。売掛・買掛を削減できる3PLはどうか。自社の視点を変えたり、自分の首を絞め続けるリスクが伴う事業であることも理解する必要がある。

3PLという状態にはいろいろな切り口があるが、未だにその中心は物流オペレーション提供であろう。具体的には保管、作業、輸送といった基本的なサービスの提供である。

顧客への在庫削減提案は自社の保管スペースを減少させる、など書いている場合ではない。自らが提案しないことが提案するのである。

3PLとは提案(コンサルティング)機能、情報システム機能、オペレーション機能、ファイナンス機能、トレーディング(卸社)機能といったさまざまな機能を組み合わせ提供するという業務の特性がある。

この特性を活かして、顧客のさまざまな問題解決に対して一層になって取り組めることが3PL選択理由の最大の理由である。

「浅く広く」の3PLという概念が、日本に上陸して約十年。しかし導入実績は1%以下という。実際は大変な状況にあるが、

# 物流革新フェア2006

## 【特別寄稿】



菅 重宏社長  
船井総研ロジ

「浅く広く」の3PLという概念が、日本に上陸して約十年。しかし導入実績は1%以下という。実際は大変な状況にあるが、

「人材」は更に二系統に分けられる。第一に提案(コンサルティング)業務(コンサルタント)である人材、第二に現場管理者(業務の立ち上げや運営ができる人材)であった。

センター運営という業務は情報システム管理、構内作業管理、労務管理、探算管理など、多岐にわたる設計・管理能力(マネジメント)が問われるサービスである。トラックを活用した輸送は得意でも、倉庫内管理は不得手な企業が多いという実情が結果となって表れているのである。

顧客はオペレーションにかかる負担を熟知しており、水統的なコスト低減にはお

たえば、在庫の削減に貢献する3PLはどうか。売掛・買掛を削減できる3PLはどうか。自社の視点を変えたり、自分の首を絞め続けるリスクが伴う事業であることも理解する必要がある。

3PLという状態にはいろいろな切り口があるが、未だにその中心は物流オペレーション提供であろう。具体的には保管、作業、輸送といった基本的なサービスの提供である。

顧客への在庫削減提案は自社の保管スペースを減少させる、など書いている場合ではない。自らが提案しないことが提案するのである。

# 最近の3PL動向

「浅く広く」の3PLという概念が、日本に上陸して約十年。しかし導入実績は1%以下という。実際は大変な状況にあるが、

「人材」は更に二系統に分けられる。第一に提案(コンサルティング)業務(コンサルタント)である人材、第二に現場管理者(業務の立ち上げや運営ができる人材)であった。

センター運営という業務は情報システム管理、構内作業管理、労務管理、探算管理など、多岐にわたる設計・管理能力(マネジメント)が問われるサービスである。トラックを活用した輸送は得意でも、倉庫内管理は不得手な企業が多いという実情が結果となって表れているのである。

顧客はオペレーションにかかる負担を熟知しており、水統的なコスト低減にはお

たえば、在庫の削減に貢献する3PLはどうか。売掛・買掛を削減できる3PLはどうか。自社の視点を変えたり、自分の首を絞め続けるリスクが伴う事業であることも理解する必要がある。

3PLという状態にはいろいろな切り口があるが、未だにその中心は物流オペレーション提供であろう。具体的には保管、作業、輸送といった基本的なサービスの提供である。

『物流、IT、金融のナレッジ&アウトソーシングパートナー』

f-logi 船井総研ロジ株式会社  
http://www.f-logi.com

これらの事でお困りの方はご連絡下さい。  
お電話1本でお客様と供に「物流改革」を実現します。

- 在庫削減(適正在庫)
- 資産圧縮(オフバランス)
- 物流コスト削減
- 不良在庫処分
- 品質向上
- 物流戦略の見直し
- 受注受付時間の延長
- 物流品質の可視化
- 物流サービスの向上
- 最適システムの導入
- 納品リードタイム短縮

TEL東京03-5159-0271 / TEL大阪06-6292-7051

で競争力アップ!

# 物流改革